

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅳ（食事） 演習	必修・選択の別	選択		
担当者氏名	工藤 久	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

人間にとっての食事の意義・目的を踏まえた上で、その人らしく生きるための自立（自律）に向けた食事について学習する。食べることは生命維持に不可欠であることを念頭に、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

【到達目標】

- 1) 食事の意義と目的を理解し、食事介護に必要なアセスメントができる。
- 2) 食事における自立支援の意義を理解し、食事支援の具体的な技術を習得する。
- 3) 誤嚥や嚥下障害について他の職種の役割と協働について把握できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 食事の意義・目的・メカニズム
- 第 2 回 食事のメカニズム（摂取～排泄）と生活リズム
- 第 3 回 食事のメカニズム GW・・・摂食にかかわる器官について
- 第 4 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ①感覚機能が低下している場合
- 第 5 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ②運動機能が低下している場合
- 第 6 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ③認知機能が低下している場合
- 第 7 回 機能低下・障害の状態に応じた介護と留意点 ④食欲不振の原因と対応
- 第 8 回 誤嚥と窒息防止
- 第 9 回 脱水と脱水の予防
- 第 10 回 食事の実際（演習）①食事環境の調整
- 第 11 回 食事の実際（演習）②自立度が高い場合
- 第 12 回 食事の実際（演習）③自立度が低下している場合
- 第 13 回 食事の実際（演習）④経管栄養を行っている場合
- 第 14 回 食事の実際（①～⑤）におけるアセスメント
- 第 15 回 他職種との連携

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行う。

【授業準備】

演習がスムーズに行えるよう、グループメンバーは利用者と介護者の役割をあらかじめ理解しておく。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護過程、生活支援技術論

【教科書等】

「新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版」＜中央法規＞

【参考文献】

・大塚彰, 高齢者・障害者の「食」の援助プログラム, 医歯薬出版(株)

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック 30%、平常点 10%により総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し適切な食事が提供できるように、食事環境の調整、満足感・生活への意欲につながることを考慮しながら積極的に基本技術を習得しましょう。